

## 根木内歴史公園 観察会

2017年4月15日(土)

参加者6名 西澤

ソメイシノの花びらが風に舞う。空は晴れているが、強い風が変に暖かく、にわか雨がくるかもしれないとの天気予報

ジャヤナギの下から観察開始。枯草がどけられた地面、一面にスギナとツクシが顔をだしていた。ヤガミスゲも順調に細い葉をだしている。民家との境に這っているミツバアケビが花をつけていた。濃い紫色の雌花、その下に房のように雄花が下がっている。雌花は「キクラゲみたい。」との声、たしかに見かけは似ている。触ってみると三枚の花びらの感触はハナ、キクラゲとは違っていた。今日は土曜日なのでザリガニ釣り子ども達が池に集まっている。水中にはミクリの若芽も顔を出していた。池の淵にはタネツケバナとともにカワヂシャが見られた。ベニシジミやキチョウ(モンキチョウ?)が飛ぶ。イヌシデの若葉はきれいな緑、オバナの房も下がっている。ソクスがしっかり茂っているあたりから湿地にかけてムラサキケマンの花が咲いている。湿地にはミゾソバ、セリの葉、花をつけたヘビイチゴが絨毯のように広がる。ヤエムグラもしっかり丈をのばしている。

ミズキの若葉にはツマグロヨコバイがついていた。新芽の樹液はおいしいのだろうか。

久しぶりにハコベの観察。柱頭を虫メガネで見る。葉が大きいからと思って見てみるが、3本のものほとんど。ウシハコベを捜したら、エゴノキの下あたりでやっと5本の柱頭を持ったウシハコベを見つけた。葉は大きく、少し波打った感じ。

ミノフスマがまとまって咲いている。同じハコベ属でもその様子はほっそりとして洗練された感じがする。花をつけたカワヂシャも発見。

今日の湿地で目立つのはタネツケバナ。これを味わった人がいて、クレソンの味だという。確かにほのかにクレソンの香り。オランダガラシ(クレソン)とタネツケバナは共にアブラナ科であり、味でも納得できた。味といえば、ツヤのある黄色い小花をつけているタガラシも味で確かめると、「から〜い」と声があがる。今日は目だけでなく味からの観察も実践。

紫系の花ではカキドオシ・ムラサキサギゴケが鮮やかだった。川側にはアリアケスミレの花もたくさんみられた。十月サクラは葉とともに花をつけている。春にもちゃんと咲くんですね。ハンノキの新緑をみながら進むと、山側崖の草が刈られたところにホウチャクソウがたくさん出ており、蕾をつけていた。他にナズナ・オランダミミナグサ・ヒメオドリコソウ・カラスノエンドウ・タチイヌノフグリ・オオイヌノフグリ・ハルジオン・キュウリグサ・ノジヤ・オランダガラシ・セイヨータンポポ・オニタビラコ・ケキツネノボタン・ユズリハ(木)・ニワトコ(木)など春の花を観察。

草むらではガサゴソとカナヘビが動き、バッタの類も見。確認はできなかったが、去年の4月の観察でも茶色のクビキリギスを見ており、今年は緑色の同種か?

広場ではシダレザクラ、ヤエザクラがソメイシノのあとを受け継ぐように咲いていた。生き物の世界にもすっかり春がきた。風が強いせい、アオジ・シジュウカラ・コサギ・カワウの他、鳥の姿は少なかった。ウグイスのさえずりも聞こえなかったように思う。

\* タガラシは有毒で、たくさん食べるとお腹が痛くなるので注意しましょう。

